



Title	関西グローバルヘルスの集いオンラインセミナー第4弾 COVID-19 そのとき、現場は動いた！ 第3回：教育・学校編
Author(s)	福井, 沙織
Citation	目で見えるWHO. 2022, 81, p. 30-31
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89678
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

関西グローバルヘルスの集いオンラインセミナー第4弾 「COVID-19 そのとき、現場は動いた！」 第3回 教育・学校編



サラヤ株式会社 メディカル事業本部

福井 沙織

2014年サラヤ株式会社入社。現職参加制度を利用し、
2018年～2020年青年海外協力隊参加。
西アフリカのベナン共和国でコミュニティ開発隊員と
して活動。KGHの集い運営委員。

2020年2月、新型コロナウイルス感染症の流行により、全国の小中学校は臨時休校となり、子どもたちの生活もめまぐるしく変化しました。関西グローバルヘルスの集いでは、保健・医療といったテーマを多く扱っていますが、この新型コロナウイルス感染症の影響を真っ先に受けた学校や子どもたちの状況を知り、これから子どもたちの健康をどう守っていくか、皆さんと考える時間になればという思いから、第3回教育・学校編をテーマにオンラインセミナーを開催しました。

初めに大阪教育大学附属高校平野校舎の堀川理介さんに学校現場からの報告として、新型コロナウイルス感染症流行から現在までの対応や先生、生徒の皆さんの状況を詳しく伺いました。休校のためのオンライン授業や宿題作成の対応、家庭への連絡など、緊急で対応された大変

さは計り知れませんが、その中でも周囲への気遣いができる子どもたちの姿を先生方はしっかり見ておられたり、生徒自身も感染対策を考慮したうえで、行事を企画運営するなどの工夫を行ったり、コロナ禍でもあらゆる気づきがあったのだと感じました。また生徒358名にコロナ禍において、困っていること、行動で変わったこと、意識や興味についてアンケートを実施された内容も紹介され、生徒の皆さんの思いを知ることができ大変興味深い内容でした(図1)。

生徒にとっては今しかない学生生活であること、どんな状況でも小さな機会、できることを模索していきたいという生徒を中心とした堀川さんのお話はとても心強いものでした。

次に、東京外国語大学多言語多文化センターの小島祥美さんに、外国につながる子どもたちをテーマに外国学校の子ど

もの健康問題と平時の対話から生まれた地域での取り組みについてお話を伺いました。

日本では、外国籍の子どもたちは就学義務の対象外とされ、外国籍の約18%(約6人にひとり)の子どもたちが社会から「見えない」状況下に置かれていること、また、現行の日本の制度(図2)では、外国学校は行政から健康診断を行うためのサポートを得られないなか、地域病院のサポートを受けながら健康診断を実施しているブラジル学校の事例などをご紹介頂きました。

また、地域の取り組みとして、教育委員会と大学生がコラボし、外国人の子どもたちのオンライン学習サポートを実施したお話では、大学生と交流することで、子どもたちが日本語習得のみならず、明るくなり、自信を持つきっかけになったと地域とのつながりの重要性を示されました。

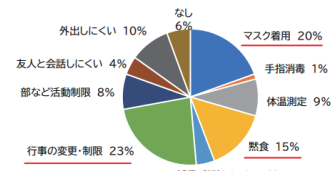
話題提供に続くパネルディスカッションでは、小島さんのお話を基に、コメントーターの小笠原理恵さん(大阪大学大学院人間科学研究科)が、WHOでもヘルスプロモーションの実践の場として学校現場に焦点をあて、児童生徒や教員のみならず、地域や家族との相互交流も視野にいれた健康促進のモデルづくりを推進しているというヘルスプロモティン

グ・スクールについて紹介されました。ファシリテーターの中村安秀さん(日本WHO協会)は、このような厳しい環境下においても、子どもたちはしっ

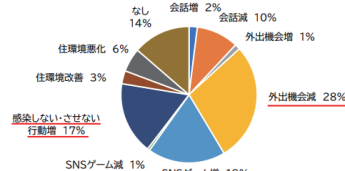
高校生の意識

附属高校平野校舎 1～3年(358名)

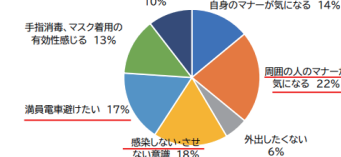
困っていること、残念に思うこと



行動面で変わったこと



意識面で変わったこと



興味関心が高まったこと

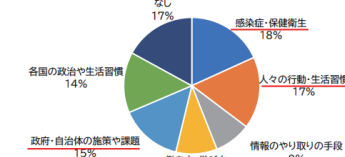


図1 堀川氏のスライドから

りと成長していることに驚くとともに、ポジティブなお話がたくさん伺えたことがとても嬉しい、という感想とともに、「ポスト・トラウマティック・グロース(外傷後成長)」という心理学で用いられる言葉の説明がありました。

子どもの声を聞き、子どもの立場に立って考えることがより良い社会をつくることにもつながっていくと実感した時間となりました。

制度の適用状況

	政府 認可校		政府 無認可校
	各種学校 認可校	各種学校 無認可校	
大学受験資格	○	○	×
JR通学定期券購入	○	×	×
学校保健安全法	×	×	×
独立行政法人日本スポーツ振興センター法 (災害共済給付)	×	×	×
学校給食法	×	×	×

出典／文部科学省委託研究(2010)「平成21年度外国人教育に関する調査研究報告書 ブラジル人等の教育機会
の現状と課題について ブラジル人学校等の準学校法人設立・各種学校認可の課題」(研究代表者：中村安秀)

図2 小島氏の発表スライドから

第29回ワンワールドフェスティバル

去る2022年2月、第29回ワンワールドフェスティバルが開催されました。前年に引き続いて全面オンライン開催になってしまったのは残念でしたが、日本WHO協会はブース会場とセミナー会場の2か所に動画を出品しました。ブース会場では、私たち関西グローバルヘルス(KGH)の集いの活動を、創設当時の2019年1月までさかのぼって紹介した後、オンラインセミナー第3弾「COVID-19からの学びは国境を越えて」から「保健ボランティア：なぜ、日本には活躍の場がないのか？」をダイジェスト版でお送りしました。セミナー会場では、同じくオンラインセミナー第3弾から「オンライン国際協力：できること、できないことは、なに？」をワンワールドフェスティバル用に編集してお送りしました。どちらの動画もこれまでに1,000回を超えるアクセス数をいただいています。ご視聴いただきました皆様、ありがとうございます。次回のフェスティバルでは、Face to faceでお会いできることを願っています！(小笠原理恵)

写真：2019年の第26回ワンワールドフェスティバル



KGHの集いへの参加には、参加費は要りません。参加資格もありません。グローバルヘルスに関心のある方は、どなたでもご参加いただけます。また、一緒に運営委員として活動してくれる仲間も随時募集しています。老若男女を問わず、普段はつながりのない人たちがつなげて、真剣かつ楽しく切磋琢磨しましょう。KGHの集いに関するお問い合わせは、kansai.gh.tsudoi@gmail.comまでお願いします。